

## 内科系学会社会保険連合（内保連）の活動についての情報提供

内分泌・代謝関連委員

群馬大学 森 昌朋

京都医療センター 成瀬光栄

平成 20 年 11 月 1 日

### ● 内保連とは

内科系学会社会保険連合の略で、現在約 100 学会が参加している。内科系技術（診療行為や検査、投薬など）を 2 年毎の診療報酬改定に適切に反映させるため、具体的な要望を提案している（内保連ルート）。診療報酬改定の要望は各学会からも可能（学会ルート）であるが、学会の連合である内保連は多数の学会の連合体としての役割と力がある。

### ● 内分泌学会が内保連に参加する意義

内分泌学会会員、内分泌代謝専門医としての診療行為（技術）が適切に診療報酬に反映できるように、診療報酬付与可能な医療技術を集約し、内保連ルートを通じて提案し得る。

### ● 提案の対象となる 4 項目

1) 問診・診察に関わる行為、2) 検査（検体、生理、画像、内視鏡など）、3) 処方関係、4) 手術、処置

### ● 留意すべき背景

1) 医療費総枠の大幅な増加は見込めないため、医学的に必要であっても医療費を圧迫するものは採択困難、2) 既採用から不要なものの撤回も必要、3) 有効性、安全性、必要性、妥当性のエビデンスが必要（論文、学会報告）、4) 厚生労働省保険局医療課、中医協などのヒアリングがありハードルは高く採択率は約 15%と低い、5) 提案しなければ採択もなく学会として継続性を持った取り組みが重要。

### ● 現在、学会会員から提案されている技術の例（すべて案）

1) バセドウ再発時の甲状腺ホルモン月 2 回算定、2) 副腎静脈サンプリング、3) 甲状腺エコーとカラードップラーの一元化、4) 副腎不全患者でのコートリル服薬指導料、5) MEN の遺伝子診断など

但し、検査は内保連検査部会での調整が必要。

### ● 今後の予定

提案のしぼりこみ（2 件程度）→エビデンス蓄積→提案書作成→内保連での調整→厚生労働省に提案→ヒアリング……

### ● まとめ

実現のハードルは高いが、内分泌の診療がより良く診療報酬に反映されるために、学会、学会員が継続して取り組んでいく必要があります。建設的なご意見をお待ちします。